

模擬患者とのロールプレイを通じ、治験コーディネーター(CRC)に必要な医療コミュニケーションとは何かを考える。エスエムオーネットワーク協同組合(SMONA)主催の模擬患者参加型・医療コミュニケーション研修

が、模擬患者活動によって医療面接の質的向上を目指す「NPO法人響き合いネットワーク東京SPの会」(事務局長・神永貞信氏)の協力を得てこのほど行われた。

参加者は、4~5人を1グループとし、一人ず

つ順番に30分の持ち時間を使って、あらかじめ用意された同意説明文書をもとに、模擬患者へ治験参加の同意説明を行うというもの。もちろん時間内での同意取得が目標で

はなく、どの程度まで患者とコミュニケーションが図れるかという点に

が、模擬患者活動によって医療面接の質的向上を目指す「NPO法人響き合いネットワーク東京SPの会」(事務局長・神永貞信氏)の協力を得てこのほど行われた。

参加者は、4~5人を1グループとし、一人ず

SMONA 模擬患者で研修開催

ロールプレイで「気づき」実感

重な体験だった――など
の意見があった。

その一方で、▽説明す
ることに気をとられ、患
者の顔あまり見なかっ
たような気がする▽臨機

模擬患者も様々なキャラクター設定がなされており、各グループをローテーションで回るので、「初対面の人とのコミュニケーション」という点からも、非常にリアリティがある。

ロールプレイ終了後に

行われたグループ発表で

足が置かれる。同じグルーブの残りのメンバーは、いわば観察者として

他者の同意説明の様子をモニターし、持ち時間終了後には、患者からの

フィードバックも含めた

第三次の立場で客観的に

見ることができたのは貴

が先のはずが、そこまで患者の気持ちに目を向けられなかつた――など、反省点を挙げる参加者もいた。

研修会アドバイザーの中野重行氏(大分大学名譽教授)は、「この研修の意義は、ロールプレイを通じて、患者から

のフィードバック、そして他者観察によるディ

スカッションを行って自分

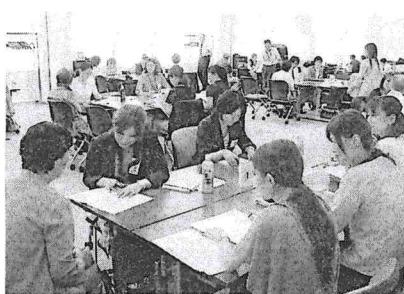
自身も知らなかつた『自分』

に気づくことに

ある」とし、「今

回の経験で『気づいた』ことを

今後も有效地活



グループに分かれて研修した

が、模擬患者活動によって医療面接の質的向上を目指す「NPO法人響き合いネットワーク東京SPの会」(事務局長・神永貞信氏)の協力を得てこのほど行われた。

参加者は、4~5人を1グループとし、一人ず

つ順番に30分の持ち時間を使って、あらかじめ用意された同意説明文書をもとに、模擬患者へ治験参加の同意説明を行うこと

に気をとられ、患者の顔あまり見なかつた――など、反省点を挙げる参加者もいた。

研修会アドバイザーの中野重行氏(大分大学名譽教授)は、「この研修の意義は、ロールプレイを通じて、患者から

のフィードバック、そして他者観察によるディ

スカッションを行って自分自身も知らなかつた『自分』に気づくことに